

- 徳島大学内で、平成29年7月に「狩猟を通じた地域と学生の学びや交流の場作りのためのサークル」である狩猟同好会を設立し、若手狩猟者の育成のための「わな猟免許講習会」の開催などを企画し、若手狩猟者を発掘・育成。
- 捕獲体験に加え、大学のクラウドファンディングを活用し、「ジビエソーセージ開発プロジェクト」を立ち上げ、ビジネスモデルを構築。また、JR四国と連携して、地域の観光資源を活かした観光プログラムを開発（「狩猟・ジビエ」「世界農業遺産」）し、旅行商品として販売していく予定。

課題・きっかけ

世界農業遺産に登録された「徳島県にし阿波地域」のプラン作成や登録申請を支援する段階で、農業の阻害要因である鳥獣被害を認識。

- ① 狩猟を通じた地域と学生の学びや交流の場作りのため、学部の垣根を越えたサークル「狩猟同好会」を29年7月に設立。
- ② 社会調査実習を岐阜県のNPOで実施、観光との連携、加工品の製作などを学び、徳島県西部での活動の可能性を探る。

世界農業遺産の申請手続を支援する際に、鳥獣被害を認識。

徳島大学狩猟同好会（Revier Jagt（レビアヤクト））を設立。
※Revier Jagtはドイツ語で「猟区」の意味

メインフィールドは徳島県三好市西祖谷を中心に活動。

狩猟サークルの活動内容

野生生物マネジメント（中山間地域の鳥獣対策）の担い手を持続的に確保するとともに、ジビエ商品の開発、販売などのビジネスモデルを構築。

- ① 若手狩猟者育成のための取組を継続的に実施、「わな猟免許講習会」を開催し、狩猟者の掘り起こしを行っている。
- ② 大学の既存のクラウドファンディングサイトを活用し、「駆除されたシカを利用したジビエソーセージ開発プロジェクト」を立ち上げ、ビジネスモデルを構築



わな猟免許講習会を実施
受講者数（わな猟免許取得者）
H27：20名（20名）
H28：30名（20名）
H29：25名（10名）
H30：16名受講予定



クラウドファンディングにより商品開発等を実施
目標金額：50万円
【結果】
支援者数108名から、支援総額約90万円に達する。
得られた資金を基に、継続的にジビエソーセージの商品開発・販売を実施。

今後の予定・課題

構築したビジネスモデルをどのように活かしていくか、法人化を視野に取組の継続を行う。

- ① JR四国と四国4国立大学が連携して、地域の観光資源を活かした観光プログラムを開発する中、徳島大学では「狩猟・ジビエ」「世界農業遺産」をテーマとした旅行商品として、販売していく予定。
- ② これまでサークル単独で捕獲した鳥獣はないため、継続的な捕獲活動に向け、近郊の徳島市内の眉山などを模索中。



JR四国と四国内の4国立大学が地域・観光振興などで協定を結ぶ（徳島新聞：平成29年9月12日）。